

# 香蘇散

1998. 12. 7.

木下優子

## 香蘇散の原典

香蘇散は『太平惠民和劑局方』、「巻2傷寒」の紹興統添方のひとつであり、南宋時代の紹興年間に収載された処方である。

大平惠民和劑局方 巻2 傷寒

香蘇散 治四時瘟疫傷寒、  
陳皮<sup>去白</sup> 甘草<sup>炙</sup> 香附子<sup>炒</sup> 紫蘇葉<sup>各肆兩</sup>

右為籠木、每服參錢水壹椀、煎分去滓、熱服不拘時、  
候日參服若作細末、只服貳錢、壹錢作入鹽點服、常須  
老人換此方與一富人家、其家貧苦、鬼曰此老城、病者  
皆念其後、疾見問富人家、富人以家貧苦、鬼曰此老城、病者  
而退、

1241 ~ 1251

### 紫蘇葉

汗を発し、氣を下し、魚毒を解す。発汗、亢奮、鎮咳、健胃、利尿剤なり。今発汗を主とす。

### 香附子

一切の氣疾を主り、十二經を通行し、血を巡らし胎産百病を治す。緩慢なる驅瘀血剤にして、月経不順、帯下、便血、吐血等に用いるも、ここでは専ら氣鬱と血滯とを目標とす。

### 陳皮

中を調へ、隔を快くし、滯を導き、痰を消し、氣を理し、湿を燥す。芳香性健胃利尿剤なり。今氣滯を順らすを目的とす。

### 甘草

以上3味をもって発散すれば陽氣虚するによって風邪にかかりやすい、故に甘草をもって氣を助く。

## 曲直瀨道三流の香蘇散使用法

『衆方規矩』には氣剤としての応用が示されている。また様々な加味方についての記載もある。

「四時の傷寒、感冒、頭痛、発熱、悪寒するもの、および内感、外感の証を治す。」

「春氣鬱を開く。」

【応用】 咳漱、鼻閉、嘔吐・悪心、飲食がこなれない、腰痛、腹痛、

下痢、疝氣、小児の傷寒・痘瘡、酒の毒、脚氣、妊娠中のむくみ、

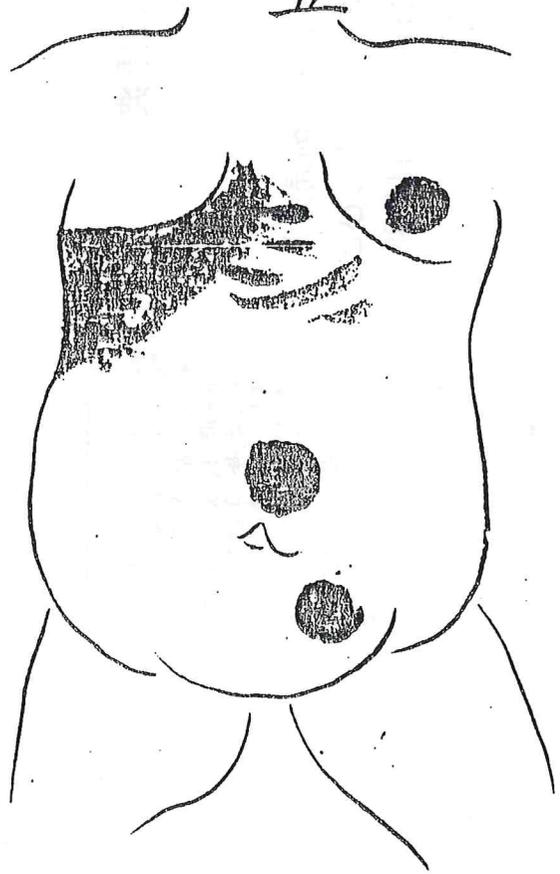
えびと此が本味で 登丸 山の

香薷散腹候第二十五

痞アレ氏右微満スル也悸モ動モ微也  
散劑也故ニ春氣鬱ヲ開ク室女尤可也  
詩曰婦人憂事春也任脈見者不可用真  
氣ヲ耗散唯因鬱而已或上熱下寒者正  
氣天香湯主之芎芷香薷等衆方規矩ヲ  
可見也

香薷散微満悸動上熱下寒天香湯之類

第六五



『玄治目附之書』岡本玄治 「余り軽き程に加味するを肝要とす。(中略)補薬血薬または附子烏頭類の薬を用るとき此方を用て滞なきように(後略)」

酒毒:丁香

『当荘庵家方口解』北尾春甫 「前医が地黄、人参などをもちい、あるいは温補して治らず、痞えるものに香蘇散を用いて効を得ることがある。(中略)「あしらい薬」の主方である」

『増広医方口訣集頭書』北山友松子 「(前略)大変よく食毒を解く効能をもつ」

『蕉窓雑話』和田東郭 「妊娠中の大腹痛」

『牛山方考』香月牛山

気鬱して血が行らず衄血するもの:当帰・川芎・側柏葉

悪阻の症:黄芩・砂仁 甚だしいものには黄連・連翹

妊娠子気:白朮・茯苓 (妊娠4.5ヶ月で腹から下がるもの)

下血:秦艽・地榆・当帰・側柏葉

下血の止まないもの、諸々の血剤を用いて効き目のないもの、

気鬱の人や役儀勤労の人が下血するような場合:当帰

湯当たり:蒼朮・厚朴

妊婦で口中が熱し、咽痛、口舌瘡を生じるもの:竹瀝厚朴湯と合方

『百方口訣集』津田玄仙

小腹痛:延胡索

二日酔いで頭痛が割れるほど強く嘔吐が甚だしきもの:生姜・黄連

妊娠子気:青木香・唐木香・烏薬

『漢陰臆乗』百々漢陰

疝気の小腹より腰あるいは臍丸へつって痛み甚だしきもの:橙皮・烏頭

『切要方義』上田山沢

食欲のないもの:人参・縮砂

酒の飲み過ぎで心下がつかえ、頭痛がして不食のもの:黄連・莪朮・神麴

## 芎芷香蘇散

川芎・白芷

『衆方規矩』曲直瀬道三：氣鬱の頭痛

『古林七十方』古林見宣：風呂上がりの頭痛

『百方口訣集』津田玄仙：妊婦の感冒

『牛山方考』香月牛山：春夏の瘟疫で頭痛甚だしきもの

### 芎芷香蘇散の加味方

荊防香蘇散：荊芥・防風

『蕉窓方意解』和田東郭：頭痛、鼻閉、清涕

十神湯：麻黄・升麻・葛根・赤芍薬

『衆方規矩』曲直瀬道三：瘟疫、感冒で、発熱、悪寒、頭痛がし、発汗無く、時々発疹が出るようなもの。陰陽両証に効く。

## 行気香蘇散

烏薬・川芎・麻黄・枳殻・羌活

『衆方規矩』曲直瀬道三：

内からは飲食で傷なわれ、外からは風寒にあてられ、または宿食や氣鬱を差し挟んで、胸がふくれ、肚腹が痛み、頭痛し、身体が痛み、発熱するもの

『牛山方考』香月牛山：肝氣鬱し脾氣めぐらざるもの

烏薬・川芎・麻黄・枳殻・羌活・柴胡・蒼朮

『蕉窓方意解』和田東郭：

氣滯で、心下両脇痞鞭甚だしく、頭痛、全身の骨節疼痛、関節の疼き、心腹絞痛、腰脚におよぶ小腹攣痛のもの

## 正気天香湯

烏薬、乾姜

『衆方規矩』曲直瀬道三

婦人で気によって痛みをなすものには、上部心胸に差し込むもの、あるいは脇につきのぼって腹中に塊を結び、渴きを発し、刺すように痛み、そのため月経不順となるもの、あるいは眩暈、嘔吐、寒熱往来するもの

『饗庭家口訣』津田玄仙：

奔豚気に似た症状で足の冷えるもの

『古林七十方』古林見宣：

胸つかえ、足冷えるに一段とよい

## 23 香蘇散 (こうそさん)

香附子4, 陳皮3, 紫蘇葉・甘草各2, 生姜0.5 (g)

**【症状治療】** かぜ薬として使う。食事性蕁麻疹に使う。

**【長期使用】** 半夏厚朴湯の使用目標と重複する部分も多く、胃腸虚弱を基盤とした種々の心気症（抑うつ傾向）やアレルギー疾患に用いられる。香蘇散は感冒や慢性蕁麻疹などに優先され、浮腫傾向があれば半夏厚朴湯が優先される。

### 【補】 香蘇散と半夏厚朴湯

香蘇散は本態は中枢性の気うつにあるが、発現する部位のフォーカスは定まらないことが多い。半夏厚朴湯は本態は同じく中枢にあるが、末梢に具体的な症状を現す気うつに用いる。すなわち香蘇散の訴えは一定せず、ボソボソと小声で訴えるが特定の部位の異常としてははっきりしない。半夏厚朴湯は「咽が詰まる感じ」とか「胸が詰まる・苦しい」とか「お腹が張って苦しい」というふうに具体的な症状を示す(表56, 図94)。

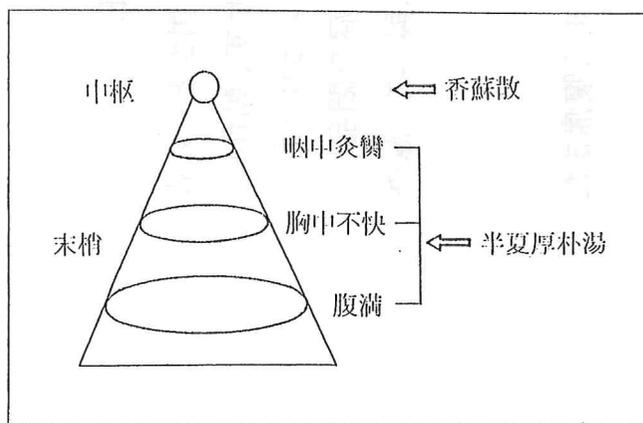


図 94 香蘇散と半夏厚朴湯の鑑別

方意を踏まえた鑑別	香蘇散	半夏厚朴湯
最初の簡単な鑑別	①胃腸虚弱・高齢者のかぜ ②食事性蕁麻疹	①咽中炙燐（咽に何かものがひっかかっているような感じ）
	気鬱としての鑑別	
	半夏厚朴湯より虚証	香蘇散より実証
脈証	沈・弱	沈・時にやや緊
舌証	無苔のことが多い。	湿った白苔が薄くあることが多い。
腹証	軟弱無力で特別の抵抗・圧痛がないか、軽度の心下痞硬、腹部の抵抗・圧痛を認める。また一般には臍傍の動悸を触れることが多い。	①香蘇散証に似る。胃内停水を認めることがある。 ②心下痞硬、中脘の抵抗、圧痛などがあり、時に大柴胡湯、半夏瀉心湯などに似ることがある。触って湿った感じ・冷たい感じがすることがある。
年齢層	虚弱者・中高年に多い。	ストレス世代に特に多い。
よくみられる鑑別兆候	①食事性蕁麻疹 ②うつ状態（無力様顔貌） ③腹満・腹痛 ④かぼそい声・小さな字	①咽喉頭異常感症（咽中炙燐） ②狭心症様症状・喘息様症状 ③腹満・腹痛・めまい ④神経質症・几帳面
心理傾向	心理的葛藤が内向し鬱々悶々としている。身体表現がへたで精神的な息詰まりを上手に開放できない傾向がある。この意味で「中枢性気鬱」と呼んでもよいかと思う。	心理的葛藤を身体表現にして開放する。精神的に息詰まると、「弱い」ところ・「敏感」なところに不快な症状として具体的に現れる。すなわち愁訴が「安全弁」になっている場合がある。この意味で「末梢性気鬱」と呼んでもよいかと思う。
臨床上的口訣	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 味覚に敏感で四君子湯、六君子湯でも服めないという者は香蘇散。悪性腫瘍など慢性消耗性疾患や心身症で薬に常にクレームをつける症例に使う時のポイントになる。</li> <li>● 香蘇散証にはすべてどこか悲哀感か萎えた感じがある。</li> <li>● 香蘇散証は文字が一般に小さく元気がない。micrographia のようになることがありパーキンソン病によかった例がある。この点、半夏厚朴湯証はペン習字のように几帳面な字を書き、理路整然とした文章になっている。筆圧も強い傾向があり、香蘇散証と対照的。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「咽中炙燐」という言葉を漠然と理解してはいけない。「薬を服むと咽にひっかかる感じ」「切羽詰まると咽が苦しくなる。息ができなくなる」「胃カメラは絶対イヤ」などと具体的に表現する。</li> <li>● 「咽中炙燐」とは「過敏な部分」の総称と理解するとよい。</li> <li>● 「胸がつまる」と言って何度か救急車で病院に行き、「異常なし」と言われたものは半夏厚朴湯。</li> <li>● 厚朴を必要とする人はどこか「硬さ」がある。筋肉の緊張とか顔の表情という意味でも、精神的な意味でも。</li> </ul>

## 『勿誤藥室方函口訣』 浅田宗伯

- 此方は氣劑の中にも揮発の効あり、故に男女とも氣滯にて胸中心下痞塞し、黙々として飲食を欲せず、動作にもものうく、胸下苦満する故、大小柴胡湯など用うれども、反て激する者、或は鳩尾にてきびしく痛み、昼夜悶乱して建中、瀉心の類を用ゆれども寸効無き者に與へて、意外の効を奏す。
- 但し局方の主治には泥むべからず。
- 又蘇葉は能く食積を解す故に食毒魚毒より来る腹痛または喘息に蘇葉を大量に用れば速効あり。

### 便秘に香蘇散

大阪鹿島屋十郎兵衛ノ女、大便不通ヲ患フコト四年許、京ニテモ一通リ諸方ヲ巡リ種々ノ治ヲ加エタレドモ治セズ。後、香蘇散ノ輕劑ニテ治シタリトナリ。是レ兎角痼癖ニ因ツテ用フル者ナリ。大便ノ氣ヲハナレテ、餘ノコトヲ治スルヲ佳トス。腹中ニ一處閉ヂル処有ルモノナリ。此レヘ取りカカリテ治ヲ施スベシ。便閉ノ病人ニ只通藥ノミヲ用フルハ素人ノ了簡ナリ。

浅田宗伯『栗園先生一夕話』より

虚弱者や氣うつ傾向の女性の便秘に応用できる貴重な指摘である。

### 現在の香蘇散の使用法

(矢数道明著『臨床応用漢方処方解説』より)

- 胃腸の弱い、心下の痞えがちな氣の滞りのある人の感冒に用いる
- 【目標】氣の鬱滞から食滯を兼ねた感冒、胃の具合が悪く、桂枝湯や葛根湯が胸に痞えるかぜ、その他氣鬱、食鬱による諸症状に用いられる。
- 脈は多くは沈で、心下痞え、肩こり、頭痛、眩暈、耳鳴り、嘔気などがあるが、氣鬱のもの。
- 【応用】感冒、神経衰弱、ヒステリー、魚中毒、腹痛、血の道症、無月経、下血、薬煩、神経症、ノイローゼ、アレルギー性鼻炎、蓄膿症、嗅覚脱失、鼻閉塞、蕁麻疹